

株主の皆さまへ

2018年2月期中間 | 2017.3.1 ▶ 2017.8.31 |

01 社長インタビュー

03 **特集** フロイントグループの
認知度向上に向けて

米国、中国、ドイツなど
海外の展示会へ積極的に参加

04 事業概況

05 財務情報

06 株式情報 / 会社情報

フロイントレポート

FREUND REPORT



『ONE FREUND』のもと、新製品開発・新市場開拓を加速

2018年2月期より、第7次中期経営計画が始動。

フロイントグループ価値観『ONE FREUND』の実現に向け、

グループが一丸となって新製品開発・新市場開拓を加速しています。



フロイントグループは、世界中の 人々の医療と健康の未来に貢献し、 豊かな生活と食の安全・安心を 支える技術を生み出し、 育成していくことを目指します。

「ハード(製品群)とソフト(製剤技術)」の融合を基礎に、
ユニークな付加価値創造を目指すフロイントグループ。
真のグローバル化に向けて、大きく変わりつつある
事業の現状をご報告します。

代表取締役社長

伏島 巖 | Iwao Fusejima

Q 2018年2月期上半期(以下「当上半期」)
における事業活動のレビューを
お願いします。

A 「GE(ジェネリック)80%時代」に向けて国内医薬品分
野向け機械事業が好調に推移していますが、GE医薬品の
浸透、市場構造の変化などもあり、今後、国内の設備投資
需要は低分子医薬品から薬理活性度の高い高分子医薬品
向けにシフトしていきます。

当上半期は、2020年度に向けたGE医薬品の数量シェ
ア引き上げ政策のもと、国内の医薬品分野向け機械事業
が、受注残の取り込みを含めて好調でした。医薬品経口剤
に使われる機能性添加剤事業も、GE医薬品向けに増加基
調でした。

海外では、前期好調だった北米市場の機械事業が鈍化
しましたが、欧州市場や中南米市場は順調で、特に、ここ
数年低調だったブラジル市場に回復感が見られました。

非医薬品分野では、国内子会社のフロイント・ターボ
を中心に、リチウムイオン電池(以下「LiB」)材料加工向け
装置に国内外の引き合いが活発です。また、食品品質保持
剤事業は、価格競争激化のなか、業績は横ばいでした。

下半期以降、GE80%普及に向けた国内GEメーカーの設
備投資需要は徐々に落ち着いてくると予想しています。市
場ではGE医薬品シェア70%台に入りつつあり、添加剤や
製剤法が新薬と同じオーソライズド・ジェネリック(AG)
医薬品やCMO(医薬品製造受託機関)の活用など、新規設備
投資に依存しない供給増強も想定されます。また、「国内
GE80%時代」の先を見据え、GE大手メーカーの中には、海
外市場での設備投資に着手する動きも出てきました。

このような現状を考慮し、当中間期の連結業績は対前
年同期比で増収・増益となりましたが、中間期業績時点
において、通期予想の見直しはしておりません。

Q 第7次中期経営計画(18/2月期~22/2月期)
の初年度、どのような滑り出しですか。

A グループ価値観『ONE FREUND』のもと、いくつかの
新しい芽が出てきました。

第7次中計では、新規事業創出と既存事業強化の2軸で、
成長基盤を構築する前半3年間、その基盤をもって飛躍的
な成長を実現する後半2年間の5年間を見据えています。

特に、当社のユニークな強みである「ハードとソフト」の融合、そしてグローバル・オペレーション体制の強化を成長基盤の中核に置いています。

ここでは、グループ価値観『ONE FREUND』のもとで特に注力している取り組み、ならびに新たな芽が出始めている事業領域について、ご紹介します。

新型錠剤印刷装置

「TABREX Rev.(タブレックス・レボ)」

前期末、初の受注を実現した「TABREX Rev.」は、現在、取扱いが難しい錠剤への対応、複数品目の同時立ち上げや多色刷りなど、お客様製薬メーカーの様々なニーズへの対応に取り組んでいます。

複数のお客様への納入を通じ、生産利用実績を積み上げていけるので、それらをもとに、競合他社との差別化につながる価値提案を積極的に行っていく計画です。

この装置は、海外市場でも潜在需要があると考えています。現在、米国子会社フロイント・ベクターが中心となり、欧米市場での事業展開の準備を進めています。

医薬品分野の戦略市場、

インドでの事業展開を加速

グローバルな医薬品関連企業が集中するインドを海外展開の戦略市場と位置づけ、現地の有力代理店と当社で一部製品製造の現地化に向けた準備に着手しました。

医薬品添加剤についても新たな代理店を開拓し、販売体制を整備するとともに、供給体制の強化を行うことで、医薬品分野全般の事業投資を強化しつつあります。なお、医薬品添加剤の基幹製品については、米国や中国でも海外代理店を選定中で、同じく市場参入を進める予定です。

LiB関連の

オープンイノベーションを強化

新規事業開発の現場では、社内技術だけでなく、広く社外からの先行技術を取り入れる必要があります。例えば、LiB関連ではフロイント産業と国内子会社フロイント・ターボ双方にまたがる技術によるグループとしての事業推進に加えて、xEV(電気自動車)向け次世代バッテリーの製造装置開発のため、山形大学xEV研究センターとの開発を進めております。

Q

株主の皆様に向けて、 メッセージをお願いします。

A

第7次中計とともに策定した新経営ビジョンの追求には、製品、人材両面の開発に基づく真のグローバル化が必要だと考えています。

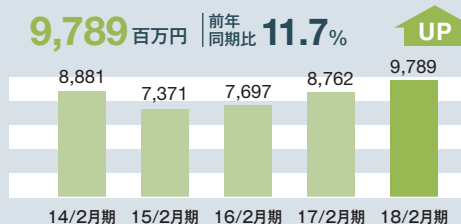
新経営ビジョンでは、「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献すること」を謳っています。従来の国内医薬品市場だけでなく、グローバル市場の開拓、そして人々の豊かな生活をも見据えた新たな事業創造が次世代の成長の源泉だと考えるからです。

例えば、「TABREX Rev.」の開発に当たっては、社外から新しい人材・知見を入れることで新たな製品分野を確立しました。一方、既存の基盤技術を昇華させる開発も非常に重要だと捉えています。その一例が、医薬品製造工程のパラダイムシフトに対応する連続造粒装置「Granuformer(グラニューフォーマー)」です。

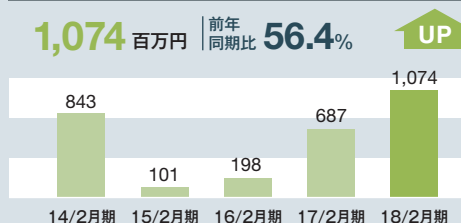
株主の皆様には、製品・人材、新規・既存基盤の両面からの開発を推進し、真のグローバル化に挑戦する当社グループを変わらずご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

決算ハイライト (各期中間)

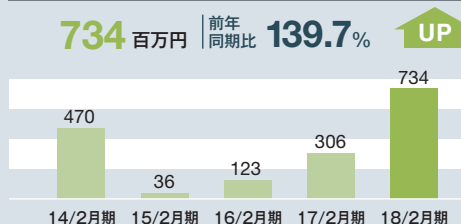
売上高



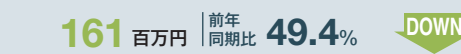
営業利益



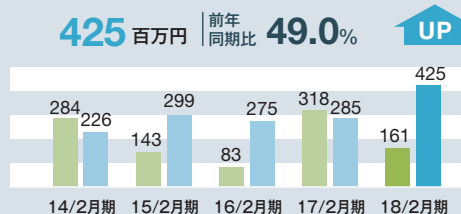
親会社株主に帰属する四半期純利益



設備投資額



研究開発費



INTERPACK

開催場所 デュッセルドルフ (ドイツ)

外観検査機能付きの錠剤印刷機「TABREX Rev.」を海外で初めて展示し、欧米やインド、西アジアなど新興国の製薬企業、ならびに製菓メーカーから高い関心が寄せられました。



Germany

CIPM

開催場所 青島 (中国)

乾式型造粒のラボ機と転動型造粒機「Granurex(グラニレックス)」を出展し、D D S (ドラッグデリバリーシステム) 製剤に最適な微粒子コーティング技術が注目されました。



China

Japan

INTERPHEX New York

開催場所 ニューヨーク (米国)

医薬品の連続生産を実現する連続造粒装置「Granuformer(グラニューフォーマー)」のグローバルモデルを初展示しました。



U.S.

特集

フロイントグループの 認知度向上に向けて

当上半期は、二次電池の研究開発・製造に必要な部品・材料や機械装置のメーカーが多く参加する展示会に、フロイント産業とフロイント・ターボが共同で初出展しました。海外では、フロイント産業が米国、中国、ドイツなどの展示会に参加し、好評を得ました。

国際二次電池展

開催場所 東京

リチウムイオン電池の製造工程で活用される粉砕装置を展示しました。日本の素材メーカーをはじめ、中国、韓国などの電池関係者が多数来場しました。



INTERPHEX JAPAN

開催場所 東京

錠剤印刷装置、造粒・コーティング装置と医薬品添加剤を展示し、実例を交えたセミナーも同時開催しました。大川原製作所、菊水製作所、フロイント産業の3社で連続造粒システムの共同デモ運転を実施し、多くのお客様から好評の声をいただきました。





機械部門

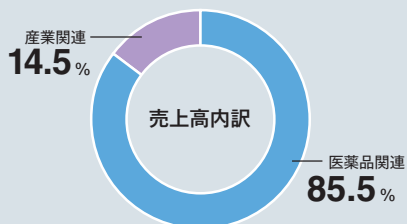
グループ会社

フロイント産業株式会社
 フロイント・ターボ株式会社
 FREUND-VECTOR CORPORATION

特徴

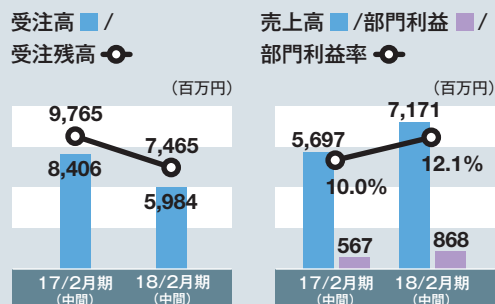
- コーティング装置の販売シェアは、国内で約70%。
- アジア市場に加え、米子会社によるグローバル展開も加速。
- 製剤技術をベースに装置開発を行う世界で唯一の企業。
- 造粒・コーティング技術に、粉碎・分級技術を融合させることで、産業機械向け装置の拡販にも注力。

医薬品、食品、ファインケミカルなどの様々な分野向けに、造粒、コーティング装置などを製造・販売



2018年2月期(中間)の概況

造粒・コーティング装置を主力とする機械部門は、前期末の受注残が過去最高の水準であったことを背景に、売上高、部門利益ともに増収、増益となりました。一方、当期の事業環境は、薬価改定などを背景とした製薬会社の設備投資の抑制が顕著化し、受注高、受注残ともに減少しています。



化成品部門

グループ会社

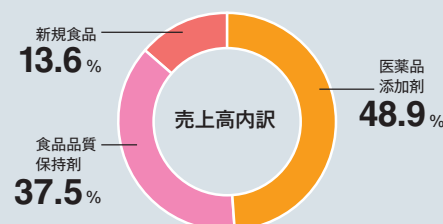
フロイント産業株式会社

特徴

- 医薬品添加剤は、GMP(*)対応設備で生産。
- 食品品質保持剤は、様々な食品の品質保持に利用され、安全な食生活に貢献。
- 造粒・コーティング技術を用い、お客様企業との共同開発で栄養補助食品やシームレスミニカプセルを商品化。

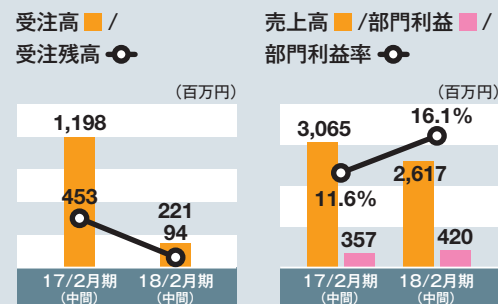
医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品などを製造・販売

(*)GMP : Good Manufacturing Practice

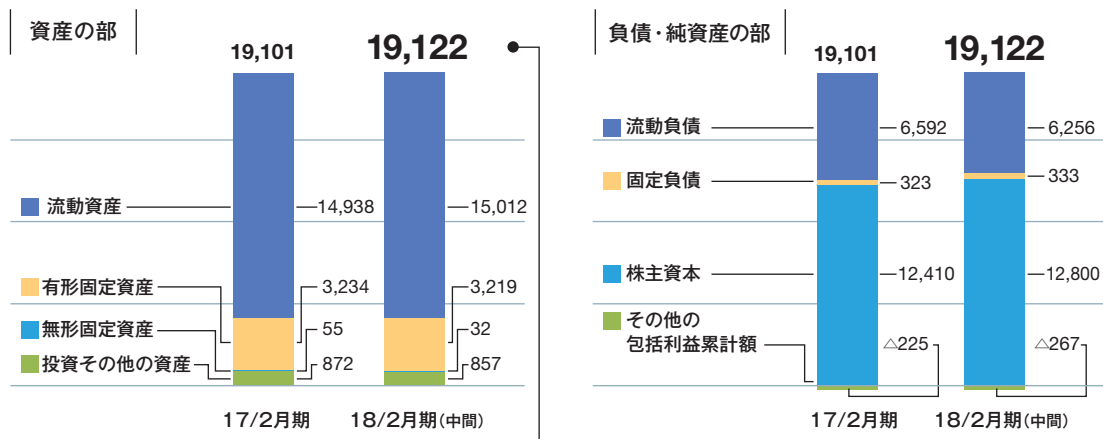


2018年2月期(中間)の概況

医薬品の副原料となる機能性添加剤は、GE薬メーカー向けに順調に推移し、売上高、営業利益ともに増加となりました。食品品質保持剤は、売上高、営業利益ともに増加となりました。また、栄養補助食品は、主要顧客の需要減を受け、売上高、営業利益ともに減少しました。これらのミックスにより、部門収益は、減収・増益となりました。



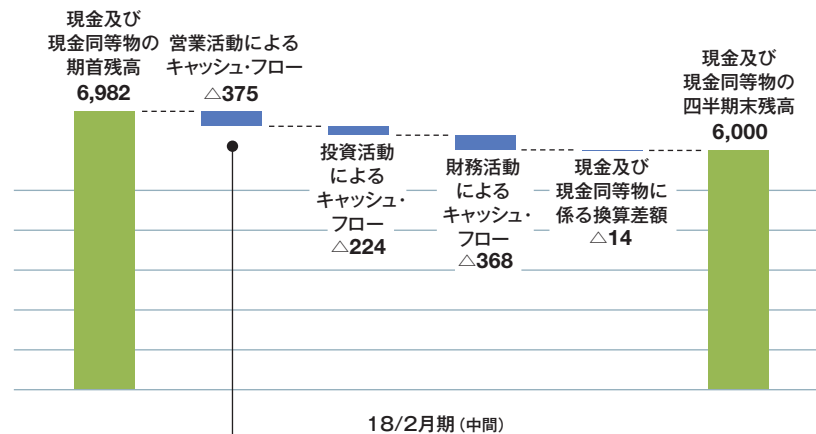
連結貸借対照表 (百万円)



POINT

機械部門における過去最高水準であった前期末受注残高の売上計上により、売上債権、仕掛品が増加し現預金が減少したため、資産合計は前期末と同水準の191億22百万円となりました。一方、前受金の減少等により負債合計は減少し、純資産合計は前期末比2.8%増の125億32百万円となりました。

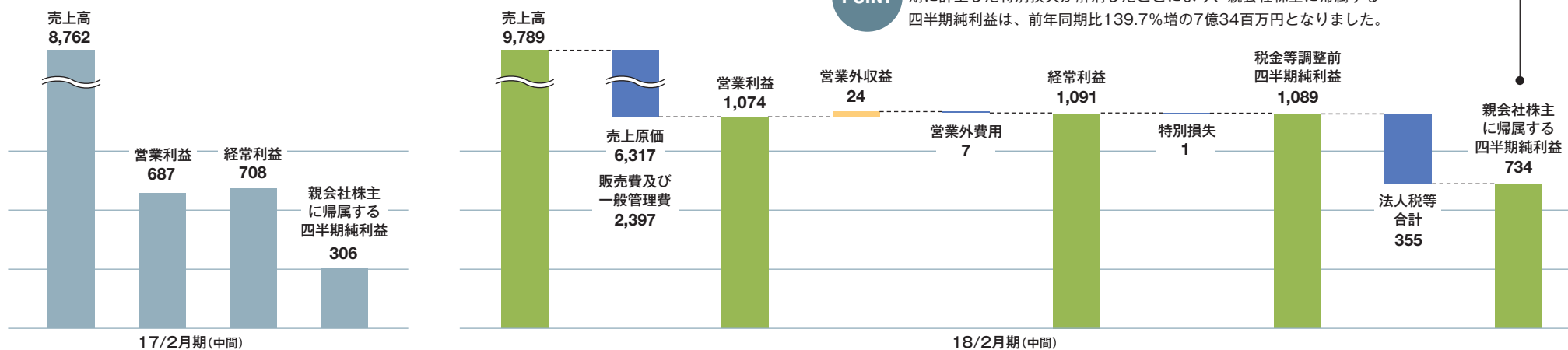
連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)



POINT

売上増加に伴う売上債権の増加、及び、受注規模が大型で通常よりも長納期案件にかかる仕掛品の増加等により、営業活動によるキャッシュ・フローは3億75百万円の減少となりました。

連結損益計算書 (百万円)



POINT

営業利益が第2四半期としては過去最高の実績となりました。前年同期に計上した特別損失が解消したことにより、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比139.7%増の7億34百万円となりました。

※当中間期では、特別利益は発生していません。

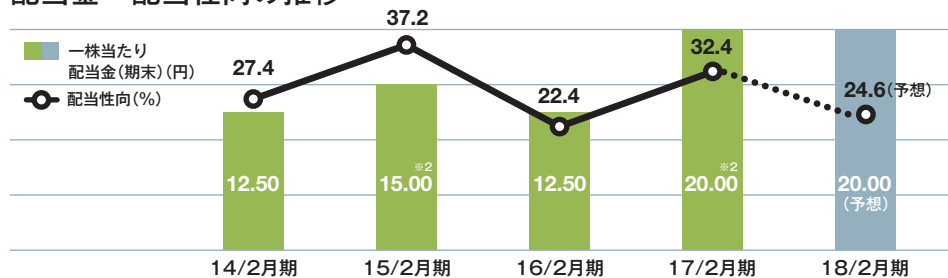
株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	18,400,000株
株主総数	7,104名

大株主の状況 (上位10名)

	持株数(千株)	持株比率(%)
伏島靖豊	1,839	10.67
(株)エフ・アイ・エル	1,648	9.56
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,264	7.33
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,083	6.28
(株)三菱東京UFJ銀行	861	4.99
(株)三井住友銀行	744	4.31
(株)大川原製作所	673	3.91
フロイント従業員持株会	416	2.42
(株)静岡銀行	368	2.13
明治安田生命保険(株)	360	2.09

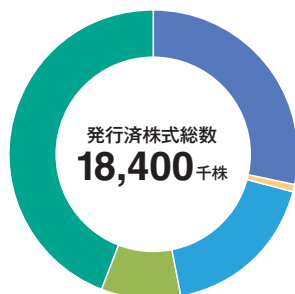
自己株式1,155千株(6.28%)を保有しております。
持株比率は自己株式1,155千株を控除して計算しております。

配当金・配当性向の推移^{※1}

※1: 2016年3月1日付で、当社普通株式を1株につき2株の割合をもって分割しましたが、2014年2月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

※2: 2015年2月期は記念配当2.50円、2017年2月期は記念配当5.00円含む。

所有者別株式分布状況



金融機関	28.59%	5,260千株
金融商品取引業者	0.73%	133千株
その他法人	17.85%	3,285千株
外国法人等	8.69%	1,599千株
個人・その他	44.14%	8,121千株

(注)自己株式は「個人・その他」に含めて記載しております。

会社概要

商号	フロイント産業株式会社
英文商号	Freund Corporation
設立	1964年4月22日
資本金	10億3,560万円
事業の概要	医薬品、食品、化学等の業界向け造粒・コーティング装置及びプラントエンジニアリングと医薬品添加剤、食品品質保持剤、栄養補助食品等の開発・製造販売
従業員数	401名(連結)
本社所在地	東京都新宿区西新宿6丁目25-13 フロイントビル
ホームページ	http://www.freund.co.jp

名誉会長

名誉会長	伏島 靖豊
------	-------

役員

代表取締役社長	伏島 巖
常務取締役	白鳥 則生
取締役	武井 成通
社外取締役	真鍋 朝彦
社外取締役	中竹 竜二
常勤監査役	小林 正
社外監査役	泉本 小夜子
社外監査役	菅原 正則
社外監査役	佐藤 光昭

関係会社

JAPAN



GLOBAL



FREUND-VECTOR CORPORATION
粉粒体機械装置の製造・販売

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
株主確定日	定時株主総会・期末配当金 2月末日（中間配当を実施するときの株主確定日は、8月31日）
株主名簿管理人 同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	〒183-0044 東京都府中市日鋼町一丁目1番地 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）
郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告の方法により行います。公告掲載URL（ http://www.freund.co.jp ） ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。

IRツール

当社ホームページ内の「株主・投資家情報」では、IR関係のニュースリリース、決算短信、フロントレポート、統合報告書、電子公告、決算説明会資料、ファクトブック、ファクトシートなどがご覧いただけます。また、このページで当社の最新のIR情報を配信する「メール配信」の登録ができますので、ぜひご登録ください。



トップページ

トップページの「株主・投資家情報」をクリックすると、最新のIR情報をご覧いただけます。



株主・投資家情報

PDF掲載資料（一例）



決算説明会資料（日・英版）



フロントレポート



統合報告書（日・英版）

詳しいIR情報は当社のホームページをご覧ください。

<http://www.freund.co.jp/ir/>

フロント産業株式会社

このフロントレポートに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

○コーポレート・コミュニケーション部 03(6890)0767 ○URL <http://www.freund.co.jp>

TOPICS

苦くない、水なしでも飲める薬の普及を目指して

当社は過去4年間連続で、日本薬剤学会の行事として製剤技術伝承実習講習会を開催するなど、OD（口腔内崩壊）錠の製剤に関する啓蒙活動を続けてきました。

2018年2月期は、9月28日からの2日間、PLCM（耕薬）研究会主催の第2回実習講習会「識る・観る・触るOD錠技術！」に協力しました。

当社の技術開発研究所（浜松）で開催されたこの講習会では、患者にやさしいバリアフリー製剤の剤形として注目を集めるOD錠の製剤技術と評価を参加者に実体験していただき、得られた成果について熱心なディスカッションが行われました。

社会の高齢化に伴い、苦くないことはもちろん、喉を通りやすく、飲みやすい薬へのニーズの拡大が見込まれています。ハード（機械装置）をソフト（製剤技術）で使いこなして生まれるOD錠向け添加剤の作り方をより多くの関係者に理解していただき、市場開拓につなげたいと考えています。



OD錠の製造を体験実習

装置内での粉の動きや動作音を聞いたり、粉を触ったりしながら、製造のポイントを学ぶ様子

- 1 微粒子のコーティング
- 2 粉体の混合とロータリー打錠機による製錠
- 3 流動層造粒機による顆粒の調製

